

男女共同参画市民アンケート調査 報告書

《ダイジェスト版》

呉市は、男性も女性も、一人ひとりの個性が輝き、互いに人権を尊重しあって、いきいき暮らせる「誰もが住みやすく、住んでみたい」まちを目指しています。

この市民アンケート調査は、男女共同参画に関する市民の意識やニーズを調査し、分析することで、今後の男女共同参画施策の参考とすることを目的に実施しました。対象は市内に居住する満20歳以上の男女2,500人(無作為抽出)です。

調査結果がまとまりましたので、概要について紹介します。

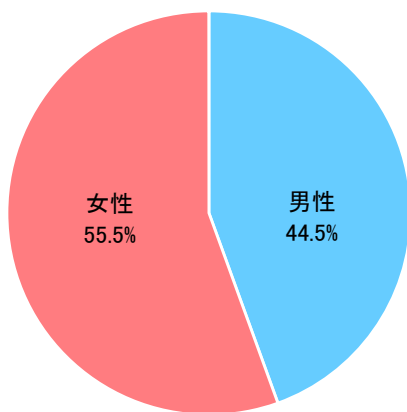
市民の皆さんには、この調査結果を通じて、男女共同参画についての意識などが、全国と呉市、男性と女性、年齢などで、どのように異なっているのか、また、過去と現在でどのように変化しているのかを考えるきっかけにしてください。



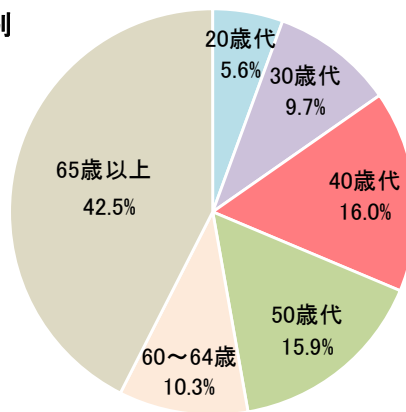
市民アンケート調査（回答者の内訳）

回収票数:1,264票 有効票数:1,256票

性別



年代別



平成28年11月

呉市

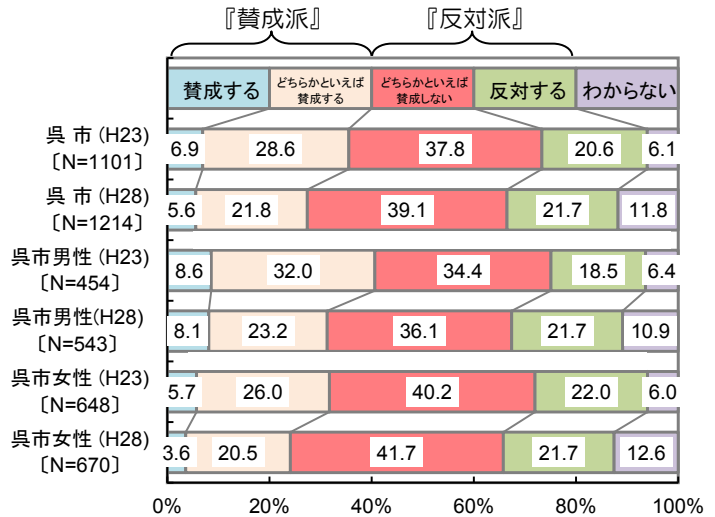
家庭、職場、地域活動・市民活動における男女共同参画について

家庭・職場・地域などで、だれもが“自分らしく”活躍できる環境をつくりましょう

◆ 「男は仕事、女は家庭」という男女の役割を固定する考え方についてどう思いますか？

- 【全体】では、「賛成する」と「どちらかといえば賛成する」を合わせた『賛成派』は27.4%、「反対する」と「どちらかといえば賛成しない」を合わせた『反対派』は60.8%です。『反対派』が33.4ポイント上回っており、その差は前回調査（平成23年 22.9ポイント）より大きくなっています。
- 【性別】では、前回調査（平成23年）と比較すると男女とも『賛成派』が減少し、「わからない」が増加しています。

「男は仕事、女は家庭」という考え方について



◆ あなたの家庭での役割分担はどのようにしていますか？

■ 「主に妻」が最も高い

炊事(かたづけを含む)	83.1%
PTA活動等の学校行事への参加	82.2%
洗濯	80.4%
育児(乳幼児の世話)	78.7%
家計の管理	75.8%
掃除	69.4%
介護・看護	55.3%
自治会等の地域活動への参加	50.1%

■ 「主に夫」が最も高い

生活費を得ること 64.7%

■ 「主に夫」「夫・妻で半々」が高い

重大事項の決定
(高額な商品や土地・家屋の購入など)

※「主に夫」: 41.1%
※「夫・妻で半々」: 42.9%

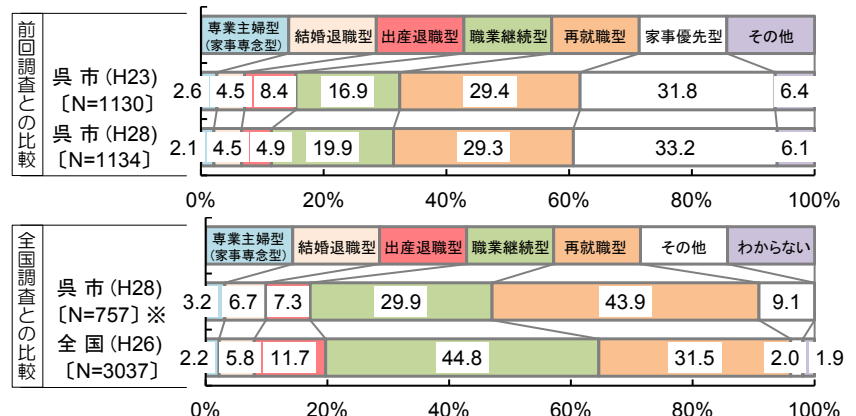
- 依然として、家事・育児等の大部分を妻が担い、「生活費を得ること」は「主に夫」という役割分担が見られますが、「重大事項の決定(高額な商品や土地・家屋の購入など)」については「主に夫」と「夫・妻で半々」が共に高くなっています。

◆ 一般的に女性が職業をもつことについてどう思いますか？

- 前回調査（平成23年）との比較では大きな変化はありませんが、『出産退職型』が3.5ポイント減少し、『職業継続型』が3.0ポイント増加しています。
- 全国調査※と比較すると『職業継続型』は低く、『再就職型』が高くなっています。

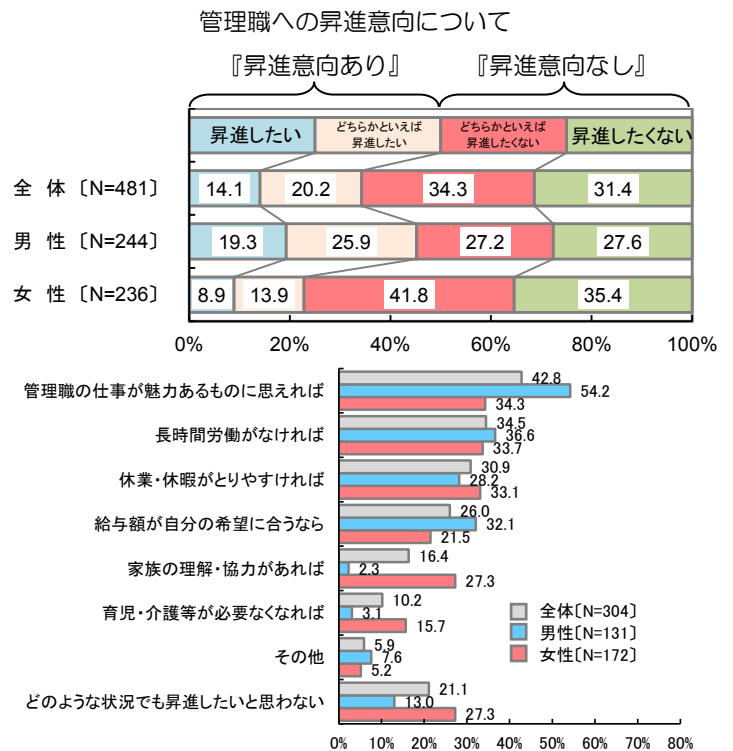
※全国調査には、『家事優先型』の意の選択肢がないため、『家事優先型』を含めず集計

女性が職業をもつことについて



◆ あなたは、管理職に昇進できるのであれば、昇進したいと思いますか？

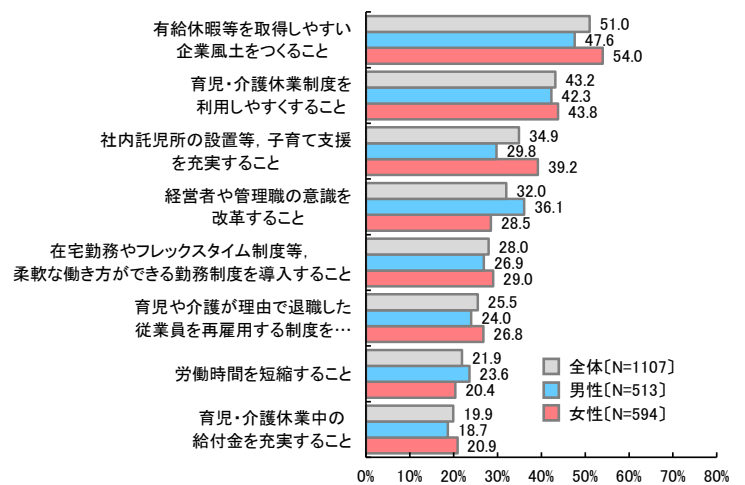
- 「昇進したくない」と「どちらかといえば昇進したくない」を合わせた『昇進意向なし』が65.7%、「昇進したい」と「どちらかといえば昇進したい」を合わせた『昇進意向あり』が34.3%で、『昇進意向なし』が『昇進意向あり』を上回っています。
- 『昇進意向なし』と回答した人について、どのような状況が整えられたら昇進したいと思うかでは、男性は「管理職の仕事が魅力あるものに思えれば」が54.2%で女性より高く、女性は「家族の理解・協力があれば」が27.3%、「育児・介護などが必要なくなれば」が15.7%で男性より高くなっています。



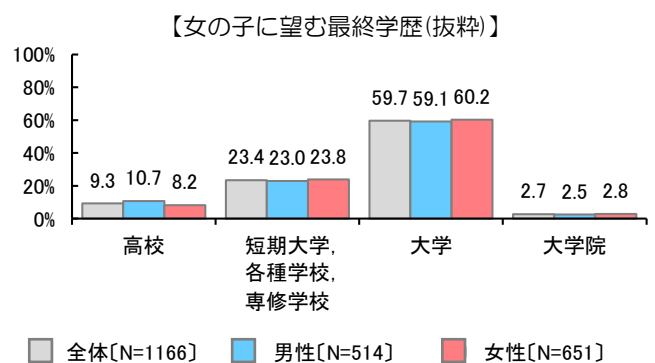
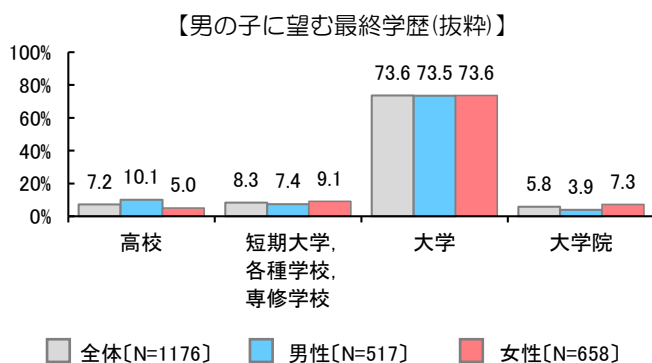
◆ 男女がともに仕事と家庭を両立できる職場環境をつくるために、どのようなことが必要だと思いますか？（複数回答）

- 【全体】では、「有給休暇等を取得しやすい企業風土をつくること」が51.0%で最も高く、「育児・介護休業制度を利用しやすくすること」が43.2%、「社内託児所の設置等、子育て支援を充実すること」が34.9%、「経営者や管理職の意識を改革すること」が32.0%と続きます。
- 【性別】では、女性は「社内託児所の設置等、子育て支援を充実すること」が39.2%で男性より高く、男性は「経営者や管理職の意識を改革すること」が36.1%で女性より高くなっています。

仕事と家庭を両立できる職場環境をつくるために必要なことについて



◆ 子どもに受けさせたい教育（最終学歴）についてはどう思っていますか？



- 【全体】では、子どもが男の子の場合は、「大学」が圧倒的に高くなっています。子どもが女の子の場合は、「大学」が最も高いものの、「短期大学、各種学校、専修学校」が男の子に比べ高くなっています。
- 【性別】では、特に大きな差異はありません。

男女の人権の尊重について

一人ひとりがお互いの人権を尊重し、協力し合って、いきいきすごせる社会をつくりましょう

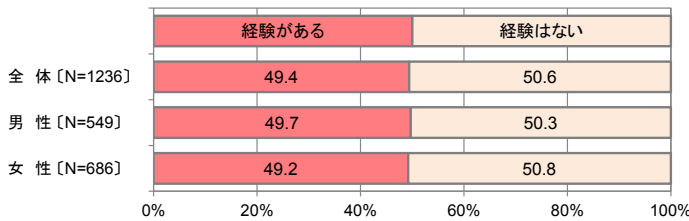
◆ 次のような事柄における男女の地位について、どのように感じますか？

〈事柄〉	男性優遇	平等	女性優遇
家庭生活	46.4%	32.4%	15.6%
就職や職場	73.1%	17.0%	2.9%
地域活動	28.8%	37.9%	10.3%
学校教育	11.9%	69.5%	6.6%
法律や制度	36.2%	40.7%	5.1%
社会の通念や慣習	67.4%	18.0%	3.0%
政治や政策決定の場	70.7%	17.0%	1.0%
社会全体	68.1%	16.4%	2.9%

- 『男性の方が優遇されている』と思っている事柄は、高い順に「就職や職場」、「政治や政策決定の場」、「社会全体」、「社会の通念や慣習」、「家庭生活」です。
- 『平等である』と思っている事柄は、高い順に「学校教育」、「法律や制度」、「地域活動」です。
- 『女性の方が優遇されている』は、最も高い「家庭生活」においても15.6%と低くなっています。

◆ 配偶者や恋人間での暴力(DV：ドメスティック・バイオレンス)の経験がありますか？

配偶者や恋人の間で行われる暴力だと思ふ行為の経験について

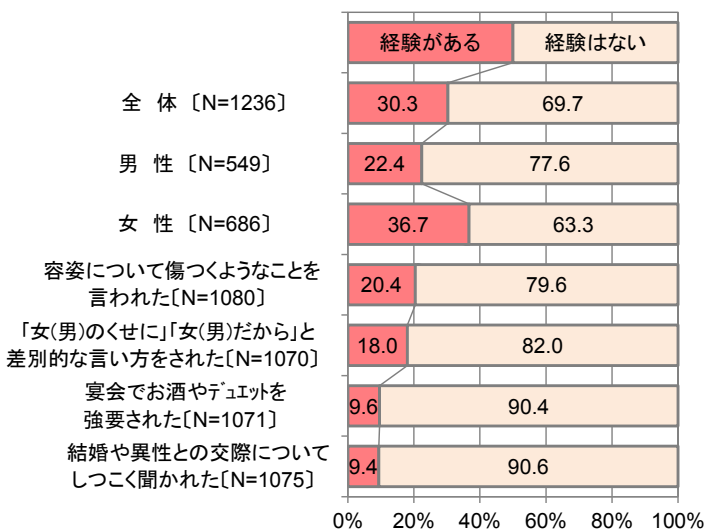


		したことがある	両方	されたことがある	経験がある(実数)
全体	男性(N=549)	38.1%	19.9%	11.7%	273
	女性(N=686)	12.8%	13.7%	40.1%	337
大声でどなる	男性(N=514)	26.7%	9.9%	2.9%	203
	女性(N=641)	5.6%	6.4%	27.3%	252
手でぶつ・殴る	男性(N=517)	17.2%	7.9%	2.9%	145
	女性(N=645)	6.2%	5.3%	15.3%	173
何を言っても長時間無視し続ける	男性(N=511)	10.6%	7.6%	4.3%	115
	女性(N=631)	4.9%	4.8%	10.6%	128

- 【全体】では、配偶者や恋人間での暴力の「経験がある」は49.4%、「経験はない」が50.6%で、約半分が被害または加害の経験があると回答しています。また、暴力被害または加害の経験内容については、男性は「したことがある」が多く、女性は「されたことがある」が多くなっています。
- 【行為別】では、男女とも『大声でどなる』の経験がある人が最も多く、『手でぶつ・殴る』、『何を言っても長時間無視し続ける』が続きます。各行為とも女性は「されたことがある」が多く、男性は「したことがある」が多くなっています。

◆ 職場・学校・地域でセクシュアル・ハラスメントを経験したことがありますか？

職場・学校・地域でのセクシュアル・ハラスメントの経験について



- 【全体】では、セクシュアル・ハラスメントの「経験がある」は30.3%です。
- 【性別】では、女性の「経験がある」は36.7%で男性より高く、また【行為別】では、「容姿について傷つくようなことを言われた」が20.4%で最も多くなっています。

男女共同参画市民アンケート調査報告書 ＜ダイジェスト版＞

発行日 平成28年11月
発行 呉市 市民部 人権センター
〒737-8501 呉市中央4丁目1番6号
【電話】(0823)25-3476 【FAX】(0823)26-6267
【E-mail】zinken@city.kure.lg.jp